

令和4年度秦野市在宅医療介護連携推進事業 第3回多職種研修会アンケート結果

開催日：2023年1月18日

集計日：2023年2月1日

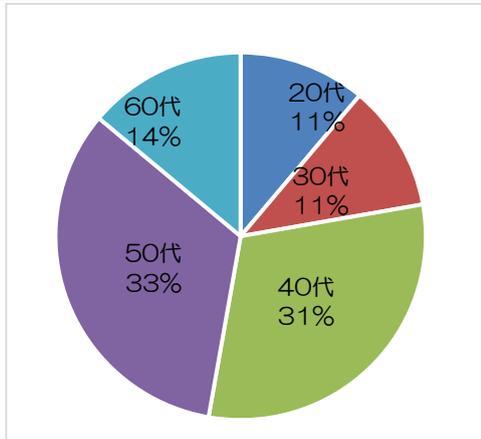
参加者数	回答数	回答率
45	36	80.0%

1 職種

医師	歯科医師	薬剤師	看護師・保健師	介護支援専門員	社会福祉士	リハビリテーション職(PT、ST、OT)	介護福祉士	精神保健福祉士	MSW	管理栄養士	その他
2	1	7	11	9	1	4	1	0	0	0	0

2 年代

20代	30代	40代	50代	60代	70代
4	4	11	12	5	0



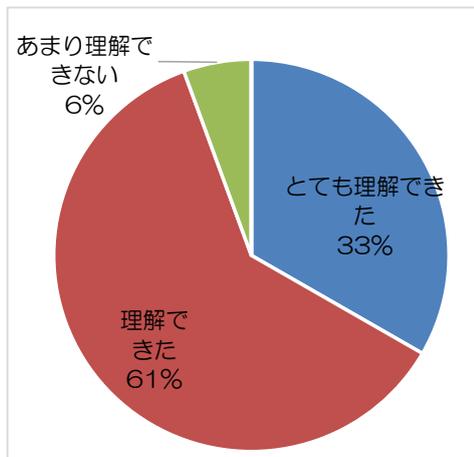
3 多職種研修会の参加回数

初めて	2回目	3回目	4回目以上
13	11	10	2



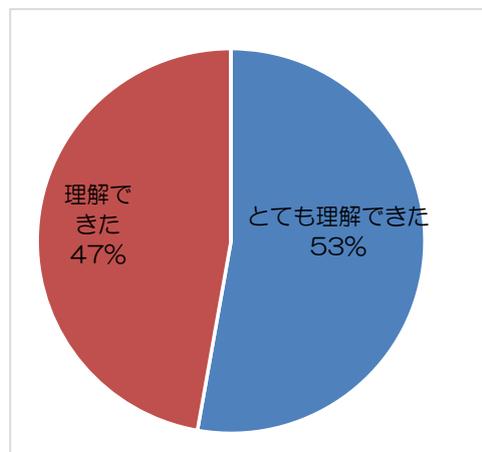
4 在宅療養における看取り期を支援する多職種の役割への理解

とても理解できた	理解できた	あまり理解できない	理解できなかった
12	22	2	0



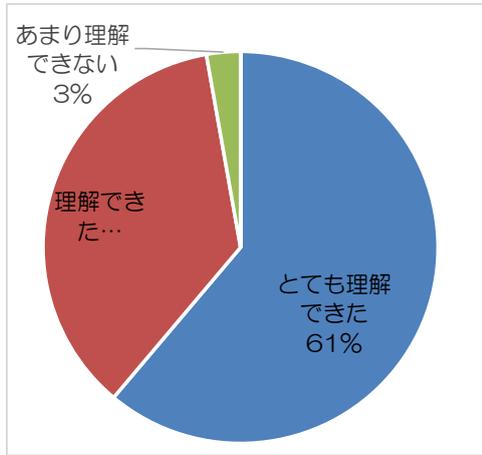
5 サービス担当者会議の重要性の理解

とても理解できた	理解できた	あまり理解できない	理解できなかった
19	17	0	0



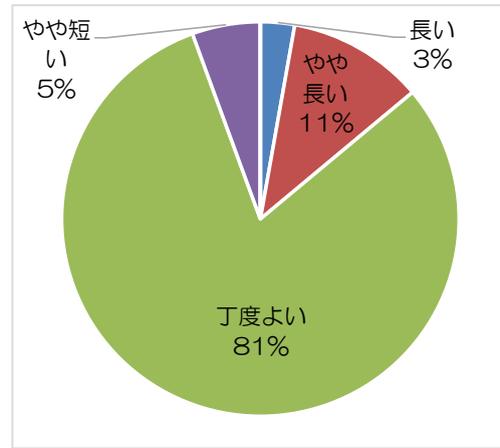
6 それぞれの価値観や多様性を理解したうえで本人を尊重した合意形成を行う重要性の理解

とても理解できた	理解できた	あまり理解できない	理解できなかった
22	13	1	0



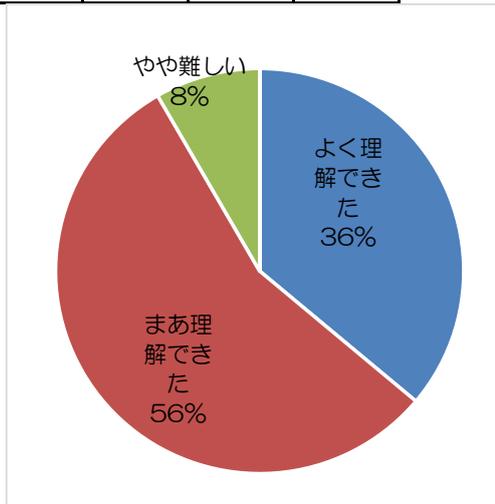
7 研修の全体評価としての時間について

長い	やや長い	丁度よい	やや短い	短い
1	4	29	2	0



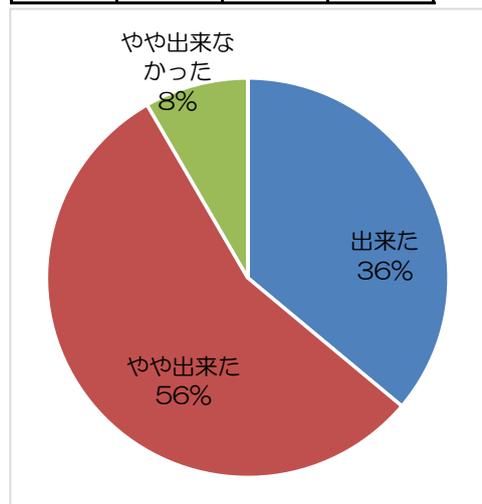
8 研修の内容について

よく理解できた	まあ理解できた	やや難しい	難しい
13	20	3	0



9 積極的に参加できたか

出来た	やや出来た	やや出来なかった	出来なかった
13	20	3	0



10 自由記載意見等

<p>参加者の皆様がプロフェッショナルなのに驚きました。お互いの仕事を理解することで、連携が強まり、質の高いサービスに繋がる事を、研修を通して実感しました。 ▪ 良い機会を与えて下さり、本当に感謝申し上げます。</p>
<p>薬剤師として、地域連携を進めていかなければならないと実感しました。自分も知識、経験ともにまだまだ未熟であると痛感しました。</p>
<p>zoomミーティング番号から入室出来なくて苦労しました。 このアンケートも研修会終了後という添付ファイルに記載されたURLでは入れませんでした。けっこう焦りました。</p>
<p>他職種の方から、視点の違いを教えて頂け、普段では気づけない事が知る事が出来ました。このような機会を増やせて行けたら良いなと感じました。</p>
<p>ありがとうございました。</p>
<p>他職種の方達と、研修を通じて話す事が出来て良かったです。</p>
<p>多職種でグループワークで意見交換が出来るのがとてもありがたいです。多職種の方となかなか意見交換できる場がないので、貴重な機会を頂いたことを本当にありがたく思っております。 専門職の方のお話を聞くことが出来、とてもいい勉強になりました。 またこのような機会がありましたら、是非、参加させて頂ければと思います。 ▪ このような研修の機会を頂き、本当にありがとうございました。 ▪</p>
<p>普段は支援者の立場であるが、今回は家族側で参加しました。わかっているけど何気ない言葉でも本人、家族にとっては何気ない言葉でも傷ついてしまうことも感じた。伝え方の難しさを感じた。</p>
<p>貴重な経験をありがとうございました。</p>
<p>研修の組み立てがきめ細やかにされていて、役作りもしやすく、役になりきれてロールプレイが行えました。立場を変えてみて、その立場になってみて感じる気持ちと、他者が普段の自分の役割を担っているのを俯瞰して見ることで、その存在の大切さを改めて感じる事ができました。 □ 頃充分な連携を取れていない職種とも最後の振り返り時間に情報共有できて、新たな知識を得る事ができました。 大変有意義な時間を設けていただき、ありがとうございました。 ▪ Zoomの操作は、特にのっけからブレイクアウトさせる調整の慌ただしさと焦りはお察します(‘0 ‘)! 乗り切って頂いて無事開催できてよかったですね。おつかれさまでした</p>
<p>普段は病棟勤務なので分からないことも多かったですが、退院後の支援について色んな方々の意見を聞いて今後の参考になりました。</p>
<p>担当者会議では、ご本人やご家族らの心情や価値観の深さを理解できていないと、特に終末期における在宅支援サービスの優位順位やあり方が、本人中心であるべきが、主介護者が中心になってしまう事を改めて感じました。また、本人が参加されている担会者会議では、専門職げ話す言葉で気持ちを傷つけてしまう事も改めて感じました。医療と介護連携とうたわれて未だ浅いですが、ケアを提供する立場に職域の優劣はなくすべきだと改めて感じました。秦野市では、専門職の一日研修で事業所間交流を図るなど新たな試みができることより医療介護連携への理解や在宅での他職種の役割をより理解できるのつはないかと感じました。</p>
<p>それぞれの役割を考えるのも大切で、相手の感情も汲み取る事も大切なんだと思いました。 ▪ 本人役や家族役の人を除いた、プロフェッショナルを演じた方へ、本職の方はこのように考え対処するという、アドバイスを頂ければ有難いなと思いました、</p>
<p>初めての参加だったので、積極的な発言はできなかったけど、色々なお話が聞けてとても勉強になりました。 ▪ 他の職種の方のロールプレイは難しかったです。</p>
<p>色々な視点でのディスカッションだったのでとても楽しく参加できたと思います。 ▪ また担当者会議で自分の職種の立場としてどんな情報を提供すればよいのかなどを考える機会になったと思いました。</p>
<p>初めて参加しましたが、各職域、患者本人、患者家族の意見のすり合わせが大変だと改めて感じました。 初めて参加しましたが、こんな風に行っているのか、ということも含めて参加出来てよかったですと思います。</p>
<p>本人役をしてみて、最初に自宅を希望したことが、関わる家族も専門職もそこを達成しようとしてしまうが、本人は自分の想いで周囲を巻き込んでいることに申し訳ないと思い、迷惑をかけないように入院したほうがいいのかとも思いが揺れることがわかりました</p>
<p>本業ではない専門職種を演じるため、知識も経験もないので利用者様に対して何が出来るかわからない。だからこそ、専門職種と連携をしてより良い医療と介護を提供してみようと思うことができた。</p>

11 今後、多職種研修会において取り上げてほしいテーマ等

ホスピス
独居の方への取り組みを取り上げて欲しいと思います。
拘りの強い、男性利用者を他職種での関わり方や連携をテーマにした研修をお願いしたいと思います。
身寄りのない多課題のケース ▪ 認知症の困難ケース 精神疾患のケース ▪
セルフネグレクト状態の方をいかに医療につなげるか
がん末期の患者の事例
若年性認知症本人と家族への支援
・秦野市内にある介護サービスの種類や内容・事業所等を知る機会があったら良いと思う。 （在宅の職種の参加者はある程度理解できているが、医療機関の参加者は知る機会が少ないのではないか。） ▪ まずは知ること、病院等から在宅への連携を深めることができると思われる。
認知機能の低下した患者と家族の関わりを、どの様に支えることができるか等
ガン末期の方の終末期の支援などのテーマ
疾患別や家族の形別の支援など多職種連携で考えるのはいかがでしょうか。